

平成 29 年度 地域ケアプラザ事業報告書

■ 施設名

日下地域ケアプラザ

■ 事業報告

1 全事業共通

(1) 地域の現状と課題について

【日下地区】

日下地区は2つの町内会と5つの自治会で構成され、地域の高齢化率は25.9%と高齢化率が進んでいます。昭和40年代に開発された戸建団地などは高齢化率も高く、独居高齢者の増加が顕著です。一方、新たな戸建て住宅も増え、若い世代も流入してきており、IHI社宅跡地の開発では203戸の戸建て住宅が建設されています。同時に140床の特別養護老人ホームも開所し、総合的な福祉サービスが提供されています。

地域活動の担い手も、高齢化が進んでいますが、少しずつ新たな担い手や若い世代の活動も増えてきています。地域で活動する住民が意見交換できる場として「日下地域づくり会議」を定期的で開催し、第3期福祉保健計画の推進と「ひした未来カフェ」で地域住民から出た夢の実現に向けた取り組みが進んでいます。今後、新たに増える住民をどのように地域との接点を持ち活動につなげていくかを検討していく必要があります。

【日野地区】

当包括が担当する日野団地は主たる住民が高齢世帯・高齢独居となっており高齢化率54パーセントと高齢化が著しく加速しています。団地内では多問題家族や高齢者の孤立など課題も多く関係機関と連携し解決に向けた取組も徐々に行われています。

また担当エリアには、連合に未加入の地域もあり分譲地区と県営住宅では相談内容やニーズが異なるため、情報収集や伝達、要援護者把握の方法について各町内会に出向いて個々に地域性に基づき工夫して介入していく必要があります。

(2) 相談（高齢者・子ども・障害者分野等の情報提供）

- ・来館者への明るい挨拶や声掛けを職員全員が意識していく事で、円滑なコミュニケーションが取れ、良い関係を築けていたと思います。今後も、誰もが気軽に安心して足を運べるような雰囲気作りを継続していきます。
- ・サブコーディネーターを中心に積極的に事業に参加し、参加者とのより良い関係を築くよう心がけてきました。それに伴い、子育てや障がいに関する悩みや不安を引き出し、関係機関に繋げたケースもありました。
- ・個人情報の保護、流出防止については、昨年度の事故の反省から、部門毎にリスクを分析、留意事項を取り決め管理してきました。また、個人情報に関する研修を所内で行うなど、職員全員が常日頃から取り扱いには十分注意しながら事業に取り組んできました。

(3) 各事業の連携

- ・アセスメントシートを更新し、地域の状況の変化を共有しました。
- ・会議だけにとらわれず、日常的に5職種で個別支援や地域支援の状況を共有し、それぞれの部門の独自性を生かし、多角的な支援ができるよう努力しました。
- ・特に介護予防については、地域交流の把握している地域資源、人材資源を生活支援コーディネーターにつなげ、包括の把握している個別ケースへと繋げ、サロン、体操教室、虹の会などへの参加に結びつきました。

(4) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

- ・事業所内の職員の退職、異動、入職が相次ぎ、職員体制が安定せず、また、法人の合併により管理体制も変更となったため、その対応に追われる1年となりました。そのため、効果的な研修の実施ができませんでした。
- ・その中で、引継ぎや管理者からの支援で、利用者や地域との関係性を大切に、支援が滞らないよう取り組みました。
- ・個人情報の保護については、部門毎に定期的にマニュアルに従い自己チェックを行ないました。
- ・11月に日下連合、各自治会町内会と連携して、特別避難場所の開設訓練を行ないました。

(5) 地域福祉保健のネットワーク構築

- ①地域づくり会議を毎月開催し、地域住民の皆様と共に第3期福祉保健計画の実現に向け検討を重ねてきました。また、今年度から日下小学校の校長先生も地域づくり会議に参加するなど学校とのネットワークも広がりました。
- ②未来カフェから始った「あいさつ運動」は、小学生のデザインから生まれた「ひっしー君」のキャラクターバッジを作成しました。今ではこのバッジを付けた地域の方々に小学生が積極的に挨拶を交わしている姿を多く見掛けるようになりました。
- ③12月に日下地区子育て連絡会を「地域で取り組むこどもの虐待予防」というテーマで開催する予定です。支援者側の「虐待」に対するイメージを共有し、その上で自分に何ができるかを再認識する事が今回の連絡会の目的ですが、今回初めて笹下中学校の児童専任の先生が参加して下さる事になりました。
- ④今年も例年同様、「笹下川クリーンアップ」、「川の学校」などの活動を継続し、子どもと地域をつなぐ場を作る事で世代間交流を実現することが出来ました。また、JA、協栄電設など企業の参加も得られるようになり、更に笹下川プロジェクトの活動が広がりました。

(6) 区行政との協働

- ・港南ひまわりプランの推進プロジェクトの一員として推進状況を検討しました。
- ・地域での見守り、ささえあいの活動の一環として「ひっしーのイエローバッジ」の取り組みを進めました。
- ・包括カンファを定例で開催し、支援困難ケースについて区役所と連携して支援にあたりました。
- ・地区担当職員、支援チームとの情報交換を行ない、連携して地域支援にあたりました。

2 地域活動交流事業

(1) 自主企画事業

- ①地域活動の担い手発掘を念頭に置いた勤労世代の女性講座、「リフレッシュタイム」を開催しました。活動を通して、足が遠のきがちな世代の来館する機会を今後も展開していきます。
- ②多世代交流の場として、毎年12月に「親子餅つき大会」を実施していましたが、今回はノロウイルスの流行や衛生面などを考慮し大変残念ですが、開催を見送りました。
- ③「ありんこクラブ」では全9回のプログラムの中で、子育て中の親子が地域と繋がる為のきっかけ作りを促進しています。他にも、1歳～未就園児親子を対象にした出入り自由なサロン「おひさまクラブ」、地域の自然と親子が触れ合えるよう毎月企画している「公園であそびましょう」など、様々な事業で親子と地域が繋がる場所や相談窓口を支援者側と連携して子育て事業を継続してきました。
- ④「ご近所茶話会」や「歌のいずみ」は毎回定員を上回る参加率で新しい参加者もあり、ケアプラザと関わる大切な機会となっています。職員も積極的にコミュニケーションを取りながら、継続して地域参加を促すよう働きかけてきました。

(2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

- ①勤労世代の女性講座、「リフレッシュタイム」の自主活動化の促進をケアプラザとして支援し、サークル活動への参加や仲間作りのきっかけとして働き掛けてきました。
- ②たんぽぽ祭りでは、雨天の開催にも関わらず例年と変わらない来場者数で、地域の中にたんぽぽ祭りが浸透している事が確認出来ました。各自主事業のやさしい書道・絵手紙サロンの作品展示や未来カフェから生まれた「ひっしーの部屋」なども好評で、デイサービスで作った梅干しは「毎年楽しみにしている」との声を来場者の方々から多く頂きました。
- ③2月に開催予定のつるし雛祭りでは、ももの会、姫うさぎ、やよい会、その他にも地域の方々の作品も展示させて頂く予定です。
- ④赤ちゃん教室や子育て広場に加え、おはなし会やおひさまクラブ、公園であそびましょう、などの活動を通して、未就園児の居場所の提供を継続していきます。
- ⑤団体登録の際は必ず施設でのルールや決まり事を説明、自主事業の際は初回に避難経路などの説明をしています。
- ⑥部屋利用団体の利用者の中から、地域のボランティア活動に興味を持ち参加する人材が生まれています。

(3) ボランティアの育成及びコーディネート

- ①10月には洋光台第二中学校の福祉体験、来年の1月には笹下中学校の職業体験の受入れを行い、若い世代が少しでも福祉に対して身近な意識を持つ機会としています。福祉教育に参加された笹下中学校においては、毎年開催している「子育て連絡会」に初めて参加して頂き、福祉教育の受け入れが新たなつながりが生まれている事を実感しております。
- ②生活支援体制整備事業が中心となり、「ピープル日下」を担当し、活動を支援しました。
- ③生活支援体制事業で推進する高齢者ボランティアの人材発掘と育成に地域交流が協力し活動の支援をしました。
- ④日下小キッズクラブ、学童たんぽぽ、川の学校などと連携しながら学校にも働きかけ、子どもたちが積極的に地域と関わり、ボランティアとして川の清掃に参加するなどボランティア精神を育みました。

- ⑤ 部屋利用団体に働き掛け、貼り絵や花壇の整備また、地域のボランティア活動に加わるなど新たなボランティア育成に繋がりました。
- ⑥ 獲得したボランティアポイントをご自身の活動の充実に使う方も多くいます。

(4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

- ① 定期的にアセスメントシートを更新し、年々変化する人口動態の把握に努め、それを地域に発信しています。
- ② 広報誌「ひなたぼっこ」を毎月発行し、最新の情報や施設利用者のアンケートなども発信しました。チラシも事業ごとに作成し、必要に応じて町内の掲示板にも掲載してもらっています。また、郵便局や近隣の医院などにも広報誌、ポスターを掲示しています。
- ③ 法人のホームページやひまわりタネットで毎月情報を更新し発信しました。

3 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

- 日下地域福祉保健計画から「あいさつ運動」の取組が始まり、住民の豊かなアイデアからシンボルマークを創出、地域住民と5職種で地域に根ざした運動を展開しました。あいさつ運動の活動を長期的に継続することで世代を超えて見守りが広がる風土づくりを目指しており、企業・商店にも協力を依頼、見守りの輪を広げる取組になりました。
- 事業実施にあたっては包括看護師と地域支援の方向性を意見交換し、把握した情報を共有、適切な支援を目指しました。また実施している事業は区・社協・他ケアプラザに情報提供し必要に応じて活動にも参加して貰いました。
- 社会問題となっている高齢者の孤立を防ぐために日下の見守り活動に携わる地域住民とネットワークの強化を目的に協議体として「日下みまもり交流会」を開催しました。

地域力を発揮できるような人材の発掘とピープル日下会員のスキルアップのために「日下住まいのマイスター6回講座」(19名参加)を開催しました。地域とつながりのなかった参加者にピープル日下の活動を紹介することで地域の福祉力・魅力を伝えることが出来ました。

(2) 地域アセスメント (ニーズ・資源の把握・分析)

- 住民の高齢化をはじめ集合住宅の繋がりが希薄化していた笹下ハイツで「元気はつらつラジオ体操」が昨年度から元気づくりステーションとして活動を継続しています(概ね22名参加)近隣ウォーキングや生活に役立つ青空教室の開催など住民の発案で徐々に地域力を高めており、新たな地域資源と新たな担い手の確保となりました。元気な地域づくりを包括看護師・区と後方支援し、今後自主化に向けては運営の課題を気軽に相談出来る支援者としての役割を担っていきます。
- 地域住民が主体となって地域課題や居場所づくりを議論する「茶の間会議」を毎月開催、住民の提案で地域と繋がっていない高齢者孤立防止の「関ふれあいサロン」が立ち上がりました。運営には新人民生委員が協力、世話役は高齢ボランティアが担い新たな人材の活躍の場の提供になりました。2つの元気づくりステーションでは地域状況を把握する住民が運営を担うことで住民主体の地域資源となりました。

包括看護師と既存の地域資源を分析、活動の充実が豊かな地域になることに着目しマンネリ化が課題だった自治町内会サロンの企画協力を支援しました。地域の個性に応じて介護予防・健康づくりなどを盛り込み高齢者の集いの場の活性化を図りました。

(3) 連携・協議の場

- ◆ 福祉ネットワークピープル日下の活動を包括主マネと連携し後方支援をしました。活動を通して支援者全体が繋がり支え合う環境作りができました。
- ◆ 楽遊クラブの認知症サポーター養成講座の寸劇・講習の支援を行い、会員それぞれが対等に役割を担う場を提供しました。会員の活動は日常的な暮らしの中で地域と繋がり介護予防を意識した社会参加を積極的に行っており、様々な地域活動のコアメンバーとして今後も活躍が期待されます。
- ◆ 地域の薬局が地域支援事業の一環としてからだ測定「日下健康フェスタ」が前年度70名以上の参加で実施。今年度も5職種・保健活動推進員・薬局・薬品会社と連携し45名の参加で地域の健康づくりを促進するために開催をしました。
- ◆ 団塊世代男性の仲間づくり日下チェッカーズの「日下防災しっとこウオークラリー」の開催を地域交流と連携して後方支援しました。
- ◆ 連携強化を目的とした「見守り交流会」住民主体の居場所づくりを議論する「茶の間会議」介護保険制度で対応出来ない草取りなどの依頼を検討する「ピープル日下実行委員会」地域防災や地区福祉保健計画を推進する「地域づくり会議」地域ぐるみであいさつ運動を展開している「あいさつ推進会議」介護予防を目的とした「元気づくりST推進チーム会議」防災について議論する「日下チェッカーズ定例会」など既存の会議に出席することで住民ニーズにきめ細やかな対応ができるよう情報共有や連携の働きかけをしました。

(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

- ◆ 日野地区社協の定例会に定期的に参加することで僅少ではありますが包括エリアの情報収集に努めることができました。
- ◆ 自主事業開催を包括エリアにしたことでケアプラザに繋がっていない住民の参加申込がありました。
- ◆ 上笹下地域ケアプラザに出向き隣接するエリアの課題を共有し広域的な情報を収集、今後協力できる事業内容を相互で確認しました。
- ◆ 新たな住民ニーズの発掘に繋げるためによこはまシニアボランティアポイントの研修会を隣接する区外のケアプラザと共催で開催しました。合同開催することでエリア間の情報を共有し相互の地域特性を把握する機会となりました。
- ◆ 隣接する区外の障がい施設の畑づくりに、地域の高齢夫妻がこれまで培ってきた経験を生かし畑の整備や収穫を通しての新たな交流を後方支援しました。

4 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

① 地域におけるネットワークの構築

- ① 5職種がそれぞれの役割と専門性を生かし、役割分担しながら事業をすすめてきました。また、お互いの情報は適宜提供することで共有に努め、必要に応じて5職種会議を行いました。
- ② 今年度も地域のサロンから声をかけていただき、概ね70歳以上の地域住民に対して介護保険制度の説明をしました。地域包括ケアシステムの「自助」と「互助」についてをポイントをお話をさせていただいたことで、サロンそのものにも意義があることの認識が持てたこと、自ら介護予防に努めることの意味を理解することが出来ました。
- ③ ピープル日下の実行委員会に参加し、ケアマネジャーとのつなぎ役や、情報提供を行いボランティアが活動しやすい環境作りと一緒に取り組んで来ました。ピープルの活動は独居高齢者に「この地域ですっと暮らしていく決心がついた」との感想をもたらしました。
- ④ あいさつ運動推進チームとの話しあいを重ね、安心してあいさつを交わせるよう日下住民の証としての缶バッジと、活動の内容を盛り込んだしおりを作成しました。初回に作成した缶バッジ400個は既に自治会、小学校、民児協等に配布を終えています。追加の作成はひまわり補助金を申請し、1000個作成しました。また、たんぽぽ祭りにも出店しPR活動を行いました。この運動に賛同しバッジを身につける地域住民が散見されるようになっていきます。

② 実態把握

- ① 居場所づくりが必要と茶の間会議に参加しているコアメンバーから課題として声がありました。住み慣れた地域で気軽に通える居場所づくりを、地域に展開できるように支援しました。笹下ハイツと関町内会の二つの地域で元気づくりステーションを展開することが出来、地域住民同士の交流や見守り・介護予防普及啓発に取り組む事ができました。
- ② 個別相談等や地域に出向き情報収集したところ、地域の通いの場も参加者が固定化してしまい、新しい参加者の確保が難ししい等の課題がありました。また、サロンの内容を企画する役員の方は試行錯誤している実態を把握できたため、介護予防普及活動事業の口腔ケア・ロコモ予防等を行い後方支援に努めました。
- ③ 毎月ケアプラザの広報紙を、町内会の役員に手渡す事で顔の見える関係作りにと努めました。

③ 総合相談支援

- ① 相談に対しては早急に訪問等を行い、状況を確認、把握し的確なサービス、関係機関等と連携し、制度、医療などに繋げ支援をしています。
- ② 継続的な支援が必要なケースに関しては各関係機関と連携を図りながら安否確認、見守り等の支援を継続して行っています。
- ③ ケアプラザから離れている地域に対しては毎月開催されるサロンにて出張相談を継続して行っています。地域の方々、民生委員の方からの相談を受け、包括支援センターが相談窓口であることの周知にも繋がっています。
- ④ 地域の急性期病院からの依頼により、包括支援センターが総合相談窓口であることを周知するための講演を行いました。
- ⑤ 生活支援COと連携し共有した地域での課題に対して自治会・民生委員・区役所等と情報共有し会議を開き課題の解決に努めました。

(2) 権利擁護業務

① 成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

- ① 権利擁護の普及啓発として今年度は3月に「認知症の理解・予防と介護について」「医療機関の受診方法と横浜市認知症疾患医療センターについて」2回の講座を行います。講座を通じてケースの発見、必要な制度へと支援を繋げていきます。
- ② 成年後見制度、あんしんセンター利用の相談があった場合には、訪問等行い状況を把握し情報、機関の情報提供を行っています。
- ③ 介護保険事業者と連携を図り、成年後見制度等が必要とみられるケースに関しては本人・親族に働きかけ支援を行いました。

② 高齢者虐待への対応

- ① 個別の虐待ケースに関しては事実確認を行い、区役所、関係機関と連携し迅速に支援を行いました
- ② 高齢者虐待防止、早期発見の普及啓発の為に区内包括社福士会共催にて、港南区ケアマネ連絡会にてケアマネジャーを対象に講座を開催しました。気になることは気軽に相談するよう呼びかけに努めました。
- ③ 虐待ケースに関しては早急に事実確認、状況把握し区役所、関係機関と連携し支援を行いました。
- ④ 「介護者の集い」を毎月1回開催し、介護者同士の交流会、講座（医療費・施設について・最新のお薬事情等）リフレッシュ体操、施設見学等を行い介護者支援に努めました。介護者に情報提供や安心して話せる場を提供することで、虐待防止の一翼を担えています。

③ 認知症

- ① 地域住民に対して認知症の理解の普及啓発のため認知症サポーター養成講座等開催しました。今年度は地域のキャラバンメイトとも協働し、講義・寸劇という流れを確立して取り組みました。
- ② 地域の自治会、民生委員、キャラバンメイトの方々生活支援COと連携し地域で認知症の本人、家族を支える体制を確認しました。
- ③ 「若年性認知症の集い」を区内ケアプラザ、社協共催にて8月と12月に開催し本人9名、家族11名の参加がありアンケートから今後も継続して参加希望がありました。2月にも開催を予定しています。今後の支援についても支援者間で連携を検討していきます。
- ④ 「介護者の集い」においても認知症の理解と対応について情報提供を行っています。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

① 地域住民、関係機関等との連携推進支援

- ①地域の会合やサロンに参加し介護保険制度に係わる話しをする機会を設けることに努めた結果、11月末現在で5カ所の町内会館をまわることが出来ました。一年に二回程度、定期的に町内会と包括、区などと情報交換を設けている町会もあります。
- ②生活支援コーディネーターと連携し協議体を開催しました。ふだん個別ケースを通してかかわりのあるケアマネジャーやサービス提供責任者などにも参加を促し、顔を合わせて話しをする機会を提供することが出来ました。地域住民一人一人が、今地域で起きていることを知り、地域で何ができるか考える機会となったことは一定の成果があったものと考えます。
- ③予てよりケアマネジャーからはインフォーマルサービスの情報が欲しいというニーズが、民生委員からはケアマネジャーがどのような人なのか、どのような仕事をしているのか知りたいというニーズがあり、ケアマネジャーと民生委員の懇談会を毎年開催しています。今年度は3カ所の民児協と年明けに開催する企画をたてています。連絡票については、各種事業にて利用の呼びかけをしており、今年度は11件の提出がありました。

② 医療・介護の連携推進支援

- ①前年度は1カ所の開業医と「相談タイム」を開催していました。今年度は更にもう1カ所の開業医から協力を得られることとなり、ケアプラザ協力医を含め3名の医師と「相談タイム」を開催してきました。
医師の方からも診察室では見えてこない生活の様子が変わり、治療方針をたてる際の参考になるとの意見をいただいています。
ケアマネジャーからも、本人から情報を得られない、治療の方針や経過を知ることができ、ケアプランに生かせるとの評価がありました。
また、今年度より、対象者を地域住民にまで拡大し、薬剤師との相談会も毎月開催しています。
- ②11月末時点で医福ネットを2回開催しています。様々な事業やチラシの配布などで周知した結果、医療・福祉をはじめ、様々な機関・職種から常時150名程度の参加があります。
- ③初級ケアマネジメント講座や、自主学習会等で周知をするとともに、医療との連携が必要な場面に於いては、積極的に活用するようPRに努めました。

③ ケアマネジャー支援

- ①常日頃、エリア内で活動するケアマネジャーとは事業や個別支援等で顔を合わせる機会を持ち、報告・連絡・相談がお互いに来るような関係性を保っています。
ケアマネジャーが何に困って、何を支援して欲しいのかじっくり耳を傾けることでの確な支援に結びつくよう努めています。
- ②前期分として5月に施設見学会を、後期分として9月～11月にかけて初級ケアマネジメント講座を開催しました。13名の受講生が参加しましたが、制度に関すること、実務に関することなど様々な知識を得ることが出来たとの感想が聞かれています。
講座終了後には、本年度も自主学習会が立ち上がりました。
- ③対人援助職としてのスキル向上を目的としてナラティブアプローチについての研修を開催しました。自分自身の態度や援助のあり方を問い直す機会になったと評判が良く、年明けに第2弾として同じ講師を招いて研修会を開催する予定となっています。
- ④現在区内では5グループの自主学習会があり区内の主マネが輪番制で関わっています。
- ⑤現在2カ所の勉強会に関わっており、適宜情報の提供や、支援についてのアドバイスを行っています。
- ⑥港南台ケアプラザと港南中央ケアプラザを会場として、計年10回ケアマネサロンを開催します。区社協の職員や、薬剤師、地域包括ケア病床のMSWなど多彩なゲストを招き、実践に役立つ情報と多職種との関係作りに役立っています。

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

- ① 11月末現在で、個別ケース地域ケア会議を2回開催しました。いずれも医師の参加は不可能でしたが、課題整理に役立つ情報として、あらかじめ意見聴取を行い会議の進行に活かしました。
- ② エリア内では独居高齢者や、高齢者世帯が増えてきており、個別の課題は様々ですが、独居高齢者の地域とのつながりの薄さが目立ってきています。現在生活支援コーディネーターを中心に、地域のサロンづくりをすすめているところですが、心身の状況により外出が困難な方への地域とのつながりをどのように作るかが課題としてあがっています。出された意見のなかで、「出張マージャン」という案については、今後エリア単位地域ケア会議や協議体で更に話しをすすめていく予定です。
- ③ 11月29日、初の試みとして、個別地域ケア会議を行ったあとに、第2部として協議体を開催しました。地域ケア会議の報告とともに、そこからあがった課題を提供させていただき、どのように地域で「見守り」を行うかについて話し合いました。見守りは誰かがやるのではなく、住民一人一人が、地域に住む人に関心を持つことが見守りの第一歩につながるということに気づくことが出来ました。

(5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

- ① ケアマネジャーが、「目標指向型」を意識してプランを作成し、実践できるように、介護予防従事者研修を開催しました。今年度は研修担当でもあり、企画・運営と育成・支援を行いました。
- ② 目標指向型プランが作成出来ていても、ケアマネジャーが利用者の意欲や認識、意向を汲み取り利用者と目標を共有できているかを確認するため、担当者会議に3職種で協力し参加することに努めました。その際にはサービス計画書の妥当性確認することも合わせて行いました。担当者会議に積極的に参加する事で、顔の見える関係性を大事にしつつ、重度化の予防や改善が図れているか確認を行いました。
- ③ 地域の社会資源を情報提供するために、広報紙や各町内会の催し物一覧などのチラシを虹の会・元気づくりステーションに参加し配布しました。地域との繋がりが持てるように働きかけをしました。
- ④ 要支援認定の方が包括の勧めにより、介護予防普及強化事業に参加したため、生活のリズムが出来るようになりました。事業終了後はOB会の世話役となり人とのつながりが出来ました。そのことで表情が明るくなり意欲的な行動に変化してきました。昼夜逆転の生活からウォーキングの下見等自ら外出するようになり、ご本人の特技を生かしてケアプラザのボランティア（お茶をたてる）も月2回行い、とても生き活きとしてきました。12月に入りヘルパーのサービス利用も卒業となりました。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

- ① 介護予防普及強化事業を、7回シリーズで「ロコモ予防・口腔ケア・低栄養」、茶話会にて「低栄養について」、関長寿会にて「口腔ケア」について、日野団地にてロコモ予防を開催しました。参加人数も全体的に多く募る事が出来、介護予防の普及啓発を行うことができました。7回シリーズの教室では、OB会が立ち上がり、4回開催しています。参加人数と講師料の関係があり、会の安定化が図れていない為、世話役の支援を行っています。OB会の世話役を中心に、毎月第二土曜日に、久良岐公園までウォーキングに取り組んでいます。

- ②区と生活支援 Co と協働し、各サロンに出向き講師等の情報を提供し運営の後方支援を行いました。長寿会にてロコモ予防・ツーステップ・ロコモチェックにて計測を行いロコモ予防の普及啓発を行いました。
- ③区や生活支援 Co と協働し、元気はつらつラジオ体操や関ふれあいサロンの元気づくりステーションの運営や後方支援に努めました。元気はつらつラジオ体操では、5月に元気づくりステーションに移行し、益々地域住民との繋がりができ、活気ある会となっています。世話役の方も会をよりよくする為に健康づくりや仲間作りを目的としたウォーキングを企画し積極的に運営を行っていることで意欲的になり生き生きしてきました。ラジオ体操終了後も、青空教室で口腔ケア・AED の操作方法等、地域住民の興味ある内容を聞き取りながら開催支援をしています。今後は保湿講座の希望があるため講師などの調整等を行っています。関ふれあいサロンも元気づくりステーションとして、健康麻雀・囲碁・ぬり絵・将棋・トランプなど、誰もが自由に参加する事が出来るまでの運営等の支援に努めています。独り暮らしの要支援の方の参加や転居したばかりの独居の方等の参加もあり、継続して参加が出来るよう参加者の変化を見守りつつ、虚弱高齢者の早期発見に努めています。
- ④人材育成は、元気づくりステーションの中の世話役の方が、地域の為に役立っている事を実感し生き活きと活躍している場を提供しながら支援する事で、特別に研修等を行わずとも、育成につながっています。更には介護予防にもつながっており、世話役・参加者の体調面や精神的な面等の変化に早期に気づくように努め、意欲低下や閉じこもりの予防を目指しています。

7 施設の適正な管理について

(1) 施設の維持管理について

地域の方々が安心して快適に利用できる施設を目指し、維持管理に努めました。

- ①専門業者による設備・保守点検業務を協定書に基づき実施しました。
- ②専門業者による内外の清掃に加え、ボランティアグループ・自治会・町内会の方々・職員による自主活動として外構清掃、草取り剪定などを適宜実施しました。
- ③新たに花植え植栽管理のボランティアの活動が始まり、笹釜通り沿いの歩道際への花植え、3階ベランダの管理を行ない、来館者の目を楽しませています。3階のベランダでの活動には男性のグループも協力しています。
- ④経年劣化による修繕が必要となる築年数となっているため、小破を含め職員、利用者も含め注意深く会館の点検・管理を実施し、必要な修繕を行ないました。

(2) 効率的な運営への取組について

- ①職員ひとり一人が省エネ、経費節減の意識を持ち取り組むことで、水道光熱費、消耗品費などを節約することができました。
- ②部屋利用者にも冷暖房や節電、省エネを呼びかけ、協力を得ることができました。
- ③社会福祉法人会計について管理職が学び、経営的な視点を持ち業務にあたりました
- ④毎月試算表をチェックして、予算の執行状況を把握しました。

(3) 苦情受付体制について

苦情は、より良い運営への大切な提言と捉え、真摯に受け止め改善に努めました。

- ①利用者が苦情を寄せやすいよう「苦情受付箱」を設置しています。
- ②毎年利用者アンケートを実施し、広くご意見を伺い、不備の点については改善に努めました。
- ③苦情とまではいかないものの利用者から寄せられた意見には真摯に対応し、改善できることは改善し、難しい点については丁寧に説明し納得していただきました。

(4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

- ①緊急時には、どの職員でも対応出来るよう、「緊急ファイル」を準備し、災害に応じた対応ができるマニュアル、連絡先などを管理しています。
- ②年4回、避難訓練を実施し、地震、火災への対応を繰り返し訓練しました。
- ③災害時の「特別避難場所」に指定されているため、マニュアルを整備し、必要な備蓄、防災用品、職員の招集方法、開設までの手順などを定めています。
- ④地域の防災訓練と連携し、地域防災拠点から要援護者を搬送する「特別避難場所開設訓練」を実施、実際に障がい者にも参加していただきました。
- ⑤「子ども110番の家」「防犯パトロールステッカー貼付」など地域の防犯活動に協力しました。
- ⑥施設は浸水想定区域に指定されているため、洪水を想定した「避難確保計画」を策定しました。

(5) 事故防止への取組について

- ①事故防止に向けて、常に安全を第1に業務を行ないました。
- ②年間で車両事故が数件発生してしまいました。職員にはそのたびに厳密な注意を行ない、その原因を職員全員で検証しています。
- ③通所介護部門では、毎日のミーティングでヒヤリハットを報告し、業務日誌に記録して、事故防止の取り組みに生かしています。
- ④事故の起きやすい場所を職員が共有し、安全に努めています。

(6) 個人情報保護の体制及び取組について

- ①横浜市の個人情報保護施策に従い、職員一人ひとりが個人情報の漏えい、滅失、き損及び改ざんの防止、その他の個人情報の適正な管理のために、必要な措置を講じます。
- ②各種研修会には管理・責任者が必ず出席し、内容を職員に伝達研修しました。
- ③職員に個人情報保護に関する資料を配付すると共に、部署ごとに研修会を実施しました。
- ④個人情報の持ち出しは、「個人情報の持出簿」を作成し、所長、及び、管理者の承認を得ることとしています。
- ⑤ファックスでの情報送信は、個人情報を隠し、必ず2名で送信先を確認しました。
- ⑥上記の手段を講じておりましたが、個人情報の漏洩が発生してしまいました。その原因を究明して職員で共有し、再発防止策を考えました。

(7) 情報公開への取組について

- ①ケアプラザでの業務、文書は情報公開の対象となることをふまえ、適切な記録、報告書の作成を行います。
- ②ケアプラザ広報誌、デイサービス広報誌で、ケアプラザの取り組みを広く地域、家族にお知らせしました。
- ③ホームページ、市の施設情報など、定期的に情報の更新を行い、新しい情報を発信しました。
- ④公開の請求があった場合は、市の個人情報の規程に基づき情報を公開します。

(8) 人権啓発への取組について

- ① 社会には、女性や子ども、高齢者、障害者、外国籍、同和問題や人種など、様々な差別や人権侵害があることを理解し、職員はひとり一人が人権尊重の大切さを理解し、ソーシャルインクルージョンを基本に業務にあたりました。
- ② 権利擁護、高齢者虐待について、職員研修を実施しました。
- ③ 地域に向けて、地域づくり会議主催での「障害の理解」、ボランティアや民生委員向けには「認知症の理解」「高齢者虐待防止」などをテーマとした地域ケア会議や、勉強会などを開催し、人権啓発を行ないました。

(9) 環境等への配慮及び取組について

- ① 職員、利用者に冷房暖房の適切な使用を徹底し、電気についても極力必要な所のみにするなど、省エネに努めます。
- ② ゴミは、担当者を決め、市の事業所分別の規程に従い、分別を徹底します。
- ③ 印刷用紙は裏紙の使用、メモ用紙への転用などで、無駄の無いよう取り組みます。
- ④ 訪問活動には、自転車、徒歩を推奨し、CO₂の削減に努めました。

【介護保険事業】

●指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

《職員体制》

看護師	1名
社会福祉士	1名
主任ケアマネジャー	1名
介護支援専門員	1名

《目標》

- ①地域で暮らす要支援の認定を受けた高齢者が、要介護状態にならないよう主体的に取り組めるプランを作成しました。また、サービス事業書の選定については、公平・中立な立場からの情報提供に努めました。
- ②委託先の事業所と密に情報交換を行い、利用者の把握に努めました。サービス担当者会議には積極的に参加し、適切な支援計画作成のための支援を行いました。

《利用者実績》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
162	159	157	160	155	158
10月	11月	12月	1月	2月	3月
157	159	159	156	157	154

●居宅介護支援事業

《職員体制》

平成29年4月～9月

- 管理者 1名（常勤兼務）
- 介護支援専門員 4名（常勤兼務1名、常勤専従3名）

平成29年10月～平成30年3月

- 管理者 1名（常勤兼務）
- 介護支援専門員 3名（常勤兼務1名、常勤専従2名）

《目標に対する成果等》

- 利用者の尊厳を守る
住み慣れた家で安心して過ごせるよう、利用者とその家族の想いに寄り添いながら支援に努めました。
- 連携・協働を図る
利用者の身体状況や環境に応じて、ケアプラザ各部門や各関係機関（保健医療・福祉サービス・行政等）地域住民の方々と細やかに連携を図り、チームケアを行えるよう努めました。
- 社会資源の活用
多様なニーズに対応出来るよう、地域の社会資源について理解を深め、総合的に支援しました。
- 職員の資質・専門性の向上
介護保険制度の改正に柔軟に対応出来るよう、常に情報の収集に努め共有を行い、職員一人一人が経験年数に応じた目標を持ち、内外の研修や勉強会に積極的に参加するなどして自己研鑽に努めました。
- 安定した事業運営
職員の退職等あり今年度は事業運営が厳しい面がありましたが、特定事業所加算2から3に変更し取り組みました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- 担当者がサービス提供地域を越えて訪問する必要がある場合には、その利用した公共交通機関の運賃実費。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- 利用者やその家族が夜間でも不安なく安心して生活できるよう、24時間対応で相談支援を行っています。

《利用者実績》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
111	102	97	98	97	92
10月	11月	12月	1月	2月	3月
95	96	96	100	103	104

● 通所介護・認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- 入浴
- 個別機能訓練Ⅰ
- 中重度者ケア体制加算
- サービス体制強化加算Ⅰ
- 介護職員処遇改善加算Ⅰ（平成29年11月より）※平成29年10月までは介護職員処遇改善加算Ⅱ

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- 1割負担分（1回利用）
 - （要介護1） 912円
 - （要介護2） 1045円
 - （要介護3） 1182円
 - （要介護4） 1320円
 - （要介護5） 1457円
- 食費負担 750円
- 送迎費用 110円（エリア外のみ1kmにつき）
- 紙おむつフラットタイプL 160円（1枚）
- 紙おむつフラットタイプM 140円（1枚）
- 紙おむつパンツタイプL 140円（1枚）
- 紙おむつパンツタイプM 110円（1枚）
- パット 30円（1枚）
- 絆創膏 10円（1枚）
- 滅菌ガーゼ 20円（1枚）

※その他、特別行事に参加される場合、事前に説明の上で別途費用をご負担いただく場合があります。

《事業実施日数》 週6日（日曜日を除く）（※平成29年7月までは週7日運営）

《提供時間》 9:30 ~ 16:30 （半角で入力 例9:00~15:00）

《職員体制》

- 管理者 : 常勤1名
- 生活相談員 : 常勤5名(介護職員兼務)
- 介護職員 : 常勤6名 非常勤15名
- 看護職員 : 常勤2名 非常勤2名
- 運転職員 : 非常勤3名
- 調理員 : 非常勤6名

※平成30年5月31日現在

《目標に対する成果等》

利用者の多くが利用を通じて日常生活動作訓練に意欲的に参加できたことでADLを維持し自分のできることを徐々に増やして在宅での生活を継続できている。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

テーブル、椅子は運動生理学に基づいて特別に設計されており（男女別に身長に応じて高さの違うものを用意している。）座位の保持、立ち上がり動作に適している。さらにテーブルはレイアウトが自由な設計でコミュニケーションツールとしても優れている。また導線には手すりを設置、浴槽は個別浴槽を用意し1日を通して生活動作訓練を行える環境を整えている。

《利用者実績（延べ人数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
645	653	654	644	647	601
10月	11月	12月	1月	2月	3月
586	603	519	490	509	562

● 介護予防通所介護・第1号通所事業・介護予防認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- サービス提供体制加算 I-イ
- 介護職員処遇改善加算 I（平成 29 年 11 月より）※平成 29 年 10 月までは介護職員処遇改善加算 II

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- 1割負担分
 - （事業対象者） 1 9 2 2 円
 - （要支援 1） 1 9 2 2 円
 - （要支援 2） 3 9 3 7 円
- 食費負担 7 5 0 円
- 送迎費用 1 1 0 円（エリア外のみ 1 k mにつき）
- 紙おむつフラットタイプ L 1 6 0 円（1 枚）
- 紙おむつフラットタイプ M 1 4 0 円（1 枚）
- 紙おむつパンツタイプ L 1 4 0 円（1 枚）
- 紙おむつパンツタイプ M 1 1 0 円（1 枚）
- パット 3 0 円（1 枚）
- 絆創膏 1 0 円（1 枚）
- 滅菌ガーゼ 2 0 円（1 枚）

※その他、特別行事に参加される場合、事前に説明の上で別途費用をご負担いただく場合があります。

《事業実施日数》 週 6 日（日曜日を除く）（※平成 29 年 7 月までは週 7 日）

《提供時間》 9 : 3 0 ~ 1 6 : 3 0 （半角で入力 例 9 : 0 0 ~ 1 5 : : 0 0）

《職員体制》

- 管理者 : 常勤 1 名
- 生活相談員 : 常勤 5 名(介護職員兼務)
- 介護職員 : 常勤 6 名 非常勤 1 5 名
- 看護職員 : 常勤 2 名 非常勤 2 名
- 運転職員 : 非常勤 3 名
- 調理員 : 非常勤 6 名

※平成 30 年 5 月 31 日現在

《目標に対する成果等》

利用者の多くが利用を通じて日常生活動作訓練に意欲的に参加できたことで ADL を維持し自分のできることを徐々に増やして在宅での生活を継続できている。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

テーブル、椅子は運動生理学に基づいて特別に設計されており（身長に応じて高さの違うものを用意している。）座位の保持、立ち上がり動作に適している。さらにテーブルはレイアウトが自由な設計でコミュニケーションツールとしても優れている。また導線には手すりを設置、浴槽は個別浴槽を用意し 1 日を通して生活動作訓練を行える環境を整えている。

《利用者実績（契約者数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
125	126	115	110	94	112
10月	11月	12月	1月	2月	3月
96	99	81	69	63	68

平成29年度「日下地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書(一般会計)地域活動

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	16,953,600	484,460	17,438,060	17,438,060	0	横浜市より
利用料金収入			0	0	0	
指定管理料充当 事業	0		0	468,450	△ 468,450	
自主事業収入			0	0	0	この列は入力しない
雑入	0	0	0	8,685	△ 8,685	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料	0		0	8,685	△ 8,685	
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	
その他 (指定管理充当分)	0		0	0	0	
その他 (施設使用料相当額 法人負担分)	3,990,000		3,990,000	3,990,000	0	
その他 (提案時控除 法人負担分)	0		0	0	0	
収入合計	20,943,600	484,460	21,428,060	21,905,195	△ 477,135	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	10,720,000	0	10,720,000	12,701,586	△ 1,981,586	
本俸	7,000,000		7,000,000	8,031,963	△ 1,031,963	
社会保険料	1,000,000		1,000,000	1,349,847	△ 349,847	
手当計	2,500,000		2,500,000	2,783,034	△ 283,034	
健康診断費	14,000		14,000	17,255	△ 3,255	
勤労者福祉共済掛金	9,750		9,750	9,750	0	すべてふれんど
退職給付引当金繰入額	79,500		79,500	79,500	0	
その他	116,750		116,750	430,237	△ 313,487	
事務費	900,000	0	900,000	751,053	148,947	
旅費	10,000		10,000	7,724	2,276	
消耗品費	228,000		228,000	195,267	32,733	
会議贈い費	0		0	0	0	
印刷製本費	200,000		200,000	170,000	30,000	
通信費	180,000		180,000	161,808	18,192	
使用料及び賃借料	0	0	0	6,636	△ 6,636	
横浜市への支払分	0		0	6,636	△ 6,636	
その他	0		0	0	0	
備品購入費	160,000		160,000	104,776	55,224	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	80,000		80,000	75,712	4,288	
職員等研修費	0		0	0	0	
振込手数料	13,000		13,000	130	12,870	
リース料	0		0	0	0	
手数料	0		0	0	0	
地域協力費	7,000		7,000	7,000	0	
その他	22,000		22,000	22,000	0	
事業費	1,192,000	0	1,192,000	596,018	595,982	
運営協議会経費	42,000		42,000	27,530	14,470	予算・指定額
指定管理料充当 事業	1,150,000		1,150,000	568,488	581,512	
管理費	7,274,000	484,460	7,758,460	8,584,767	△ 826,307	
建築物・建築設備点検	0		0	0	0	予算・指定額
光熱水費	3,752,000	0	3,752,000	4,160,599	△ 408,599	
電気料金				1,801,411		
ガス料金				1,032,865		
水道料金				1,326,323		
清掃費	1,130,000		1,130,000	1,294,771	△ 164,771	
修繕費	474,000	484,460	958,460	958,460	0	予算・指定額
機械整備費	300,000		300,000	372,678	△ 72,678	
設備保全費	1,266,000	0	1,266,000	1,446,064	△ 180,064	
空調衛生設備保守	400,000		400,000	441,958	△ 41,958	
消防設備保守	60,000		60,000	68,325	△ 8,325	
電気設備保守	85,000		85,000	89,586	△ 4,586	
害虫駆除清掃保守	41,000		41,000	47,780	△ 6,780	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	680,000		680,000	798,415	△ 118,415	
共益費	0		0	0	0	
その他	352,000		352,000	352,195	△ 195	
公租公課	857,600	0	857,600	1,016,126	△ 158,526	
事業所税				0	0	この列は入力しない
消費税	857,600		857,600	1,016,126	△ 158,526	
印紙税				0	0	この列は入力しない
その他 ()				0	0	この列は入力しない
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	0	0	0	0	0	この列は入力しない
本部分				0	0	この列は入力しない
当該施設分				0	0	この列は入力しない
二一ス対応費				0	0	この列は入力しない
支出合計	20,943,600	484,460	21,428,060	23,649,550	△ 2,221,490	
差引	0	0	0	△ 1,744,355	1,744,355	

自主事業費収入	1,150,000		1,150,000	0	1,150,000	予算・指定管理料に含む
自主事業費支出	1,150,000		1,150,000	568,488	581,512	
自主事業収支	0	0	0	△ 568,488	568,488	⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費
管理許可・目的外使用許可収入	0		0	8,685	△ 8,685	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0		0	6,636	△ 6,636	使用料(横浜市への支払等)・駐車場設備保全費
管理許可・目的外使用許可収支	0		0	2,049	△ 2,049	

収支予算書及び報告書(特別会計)〈包括・介護予防・生活支援体制整備〉

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料(包括)	23,996,000	0	23,996,000	23,996,000	0	横浜市より
指定管理料(介護予防)	151,000		151,000	151,000	0	横浜市より
指定管理料(生活支援)	5,789,000	△ 1,874,259	3,914,741	3,914,741	0	横浜市より
利用料金収入			0	0	0	この列は入力しない
指定管理料充当事業(包括)	0		0	17,000	△ 17,000	
指定管理料充当事業(介護予防)	0		0	0	0	
指定管理料充当事業(生活支援)	0		0	19,000	△ 19,000	
自主事業収入			0	0	0	この列は入力しない
雑入	0	0	0	0	0	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料	0		0	0	0	
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	
その他(指定管理料充分)	0		0	0	0	
その他(提案時控除 法人負担分)	0		0	0	0	
収入合計	29,936,000	△ 1,874,259	28,061,741	28,097,741	△ 36,000	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	25,540,000	0	25,540,000	26,578,972	△ 1,038,972	
本俸	14,108,500		14,108,500	14,137,700	△ 29,200	
社会保険料	2,820,000		2,820,000	2,822,467	△ 2,467	
手当計	8,000,000		8,000,000	8,700,530	△ 700,530	
健康診断費	15,000		15,000	14,464	536	
勤労者福祉共済掛金	29,250		29,250	29,250	0	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	567,250		567,250	567,250	0	
その他	0		0	307,311	△ 307,311	
事務費	430,000	0	430,000	755,158	△ 325,158	
旅費	40,000		40,000	46,540	△ 6,540	
消耗品費	50,000		50,000	74,536	△ 24,536	
会議購入費	0		0	0	0	
印刷製本費	25,000		25,000	25,000	0	
通信費	208,200		208,200	311,058	△ 102,858	
使用料及び賃借料	1,400	0	1,400	1,764	△ 364	
横浜市への支払分	1,400		1,400	1,764	△ 364	
その他	0		0	0	0	
備品購入費	0		0	0	0	
図書購入費	12,000		12,000	12,343	△ 343	
施設賠償責任保険	30,000		30,000	30,127	△ 127	
職員等研修費	50,000		50,000	49,630	370	
振込手数料	12,000		12,000	11,988	12	
リース料	0		0	0	0	
手数料	0		0	0	0	
地域協力費	0		0	19,000	△ 19,000	
その他	1,400		1,400	173,172	△ 171,772	
事業費	2,020,000	0	2,020,000	1,095,644	924,356	
協力医	630,000		630,000	630,000	0	予算:指定額
指定管理料充自主事業(包括)	930,000		930,000	34,327	895,673	
指定管理料充自主事業(介護予防)	151,000		151,000	151,000	0	予算:指定額
指定管理料充自主事業(生活支援)	309,000		309,000	280,317	28,683	予算:指定額
管理費	1,946,000	0	1,946,000	2,159,906	△ 213,906	
建築物・建築設備点検	0		0	0	0	予算:指定額
光熱水費	1,037,000	0	1,037,000	1,105,982	△ 68,982	
電気料金				478,856		
ガス料金				274,559		
水道料金				352,567		
清掃費	340,000		340,000	344,177	△ 4,177	
修繕費	126,000		126,000	126,000	0	予算:指定額
機械警備費	90,000		90,000	99,066	△ 9,066	
設備保全費	263,000	0	263,000	391,061	△ 128,061	
空調衛生設備保守	100,000		100,000	117,482	△ 17,482	
消防設備保守	18,000		18,000	18,162	△ 162	
電気設備保守	23,000		23,000	23,814	△ 814	
害虫駆除清掃保守	12,000		12,000	12,700	△ 700	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	110,000		110,000	218,903	△ 108,903	
共益費	0		0	0	0	
その他	90,000		90,000	93,620	△ 3,620	
公租公課	0	0	0	0	0	
事業所税				0	0	
消費税				0	0	
印紙税				0	0	
その他()				0	0	
事務経費(計算根拠を説明欄に記)	0	0	0	0	0	この列は入力しない
本部分				0	0	
当該施設分				0	0	
二一ス対応費				0	0	
支出合計	29,936,000	0	29,936,000	30,589,680	△ 653,680	
差引	0	△ 1,874,259	△ 1,874,259	△ 2,491,939	617,680	

自主事業費収入	1,390,000			36,000		予算:指定管理料に含む
自主事業費支出	1,390,000			465,644		
自主事業収支	0			△ 429,644		⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費

管理許可・目的外使用許可収入	0			0		駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人
管理許可・目的外使用許可支出	0			1,764		使用料(横浜市への支払等)・駐車場設備保全費
管理許可・目的外使用許可収支	0			△ 1,764		

平成 29年度 地域ケアプラザ収支報告書<介護保険事業分>

施設名：日下地域ケアプラザ

平成29年4月1日～平成30年3月31日

(単位：千円)

	科目	介護予防支援	居宅介護支援	通所介護	予防通所介護・ 第1号通所介護
収入	介護保険収入	9344	19255	83696	5669
	その他	0	166	1869	0
	介護予防ケアマネジメント 費				
	事業・負担金収入				
	その他		166	1869	
収入合計(A)		9344	19421	85565	5669
支出	人件費	2889	18157	72103	
	事務費		1491	10251	
	事業費		586	15185	
	管理費				
	その他	5647	172	767	0
	利用者負担軽減額				
	消費税				
	介護予防プラン委託料	5647			
	その他		172	767	
支出合計(B)		8536	20406	98306	0
収支 (A) - (B)		808	-985	-12741	5669

平成29年度 自主事業収支報告書

施設名

日下地域ケアプラザ

事業名	①主な対象者	自主事業決算額							
	②参加人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
ご近所茶話会	高齢者	378,832	地活	2,332	376,500	0	22,274	108,437	248,121
	536		包括						
	200～7000		生活						
みんなのサロンぽかぽか	障がい児者親子	25,622	地活	1,472	24,150	0		25,622	0
	88		包括						
	250～800		生活						
歌のいずみ	高齢者	16,704	地活	104	16,600	0	0	16,704	0
	138		包括						
	100～500		生活						
やさしいパン教室	地域	15,060	地活	60	15,000	0	0	15,060	0
	19		包括						
	1000		生活						
こうなんなつっこ	障がい児者親子	22,113	地活	113	2,000	20,000	0	22,113	0
	4		包括						
	1000		生活						
夏のおはなし会	乳幼児親子	534	地活	534	0	0	0	534	0
	24		包括						
	0		生活						
ちびっこ運動会	乳幼児親子	2,240	地活	2,240	0	0	0	2,240	0
	55		包括						
	0		生活						
ありんこクラブ	乳幼児親子	93,588	地活	59,388	34,200	0	0	93,588	0
	302		包括						
	1800		生活						
園芸活動	地域	2,870	地活	2,870	0	0	0	2,870	0
			包括						
			生活						
冬のおはなし会	乳幼児親子	534	地活	534	0	0	0	534	0
	50		包括						
	0		生活						
ボランティア交流会	ボランティア	9,695	地活	9,695	0	0	0	9,695	0
	32		包括						
	0		生活						
つるし雛まつり	地域	696	地活	696	0	0	0	696	0
			包括						
	0		生活						
				80,038	468,450	20,000	22,274	298,093	248,121

平成29年度 自主事業報告書

横浜市日下地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ご近所茶話会	【目的】 特に一人暮らし、日中独居の高齢者の地域での仲間作り、介護予防、閉じこもり予防を目的として毎月開催。参加者同士が交流することで地域の知り合いが増え、身近な地域でのつながりが生まれる。	毎月第4金曜日 年間12回
	【目的】 特に一人暮らし、日中独居の高齢者の地域での仲間作り、介護予防、閉じこもり予防を目的として毎月開催。参加者同士が交流することで地域の知り合いが増え、身近な地域でのつながりが生まれる。	

事業名	目的・内容	実施時期・回数
歌のいずみ	【目的】 童謡や唱歌、なつかしい歌などをみんなで歌うことで、心をリフレッシュしたり、参加者同士の交流、世代を超えた交流を行い、地域での仲間作りをすすめる。歌うことによる介護予防の効果も期待される。	年3回 6月10月2月に開催
	【内容】 童謡、唱歌、なつかしい歌謡曲などをピアノの伴奏に合わせて皆で歌う。デイサービス利用者も、地域の一員として参加。男性の参加も増え、世代性別を超えた交流が進んでいる。	

事業名	目的・内容	実施時期・回数
やさしいパン教室	【目的】 パン作りを通して世代間交流をはかる。地域のつながり作り。	1回 5月
	【内容】 地域にお住いの福永さんを講師にパン教室を開催。若い母親から高齢者まで幅広い年代の方が参加できるようにして交流を図る。	

事業名	目的・内容	実施時期・回数
おもちゃの病院	【目的】 地球環境を守るためにも、物を大事にする気持ちをはぐくむ。 定年後の男性の生きがい作り。世代間交流。	隔月第3日曜日
	【内容】 男性ボランティアのおもちゃドクターが壊れたおもちゃを子どもの目の前で修理する。	

平成29年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
おひさまクラブ	<p>【目的】 母子の地域でのつながり作り、交流の場の提供。仲間作り、孤立の予防。 日下地区社協との共催。</p> <p>-----</p> <p>【内容】多目的ホールを開放し、未就園児と母親が集い交流する場を提供。主任児童委員、保育のボランティア、子供会の母親が支援に入り、気軽に相談などもできるようにしている。笹下南保育園の保育士も都合がつけば参加し相談にのっていただいている。</p>	毎月第3月曜日 年間12回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
公園で遊びましょう	<p>【目的】 母子の地域でのつながり作り、交流の場の提供。仲間作り、孤立の予防。外での開催のため、参加しやすくまた、地域にも活動を知ってもらう機会となる。 日下地区社協との共催。</p> <p>-----</p> <p>【内容】 笹下中央公園での親子での外遊びを、ボランティア、主任児童委員が支援。</p>	毎月第4月曜日 年間10回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
おひさま文庫	<p>【目的】 ケアプラザを地域の多くの方々に知ってもらい、気軽に利用してもらいきっかけを作る。福祉保健情報や子育てに関する情報を提供する。</p> <p>-----</p> <p>【内容】 情報コーナーに戸塚図書館より団体貸し出しを受けた絵本、雑誌、小説、実用書などを地域に貸し出す。手作りおもちゃなどを置き親子で遊べるスペースを作る。</p>	年間 ケアプラザ開館時

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ありんこクラブ	<p>【目的】 一歳児の親子対象の育児講座。9回の講座で、発達の基本を学び、育児の不安解消や、地域での仲間作りをすすめ、地域で楽しく子育てできる環境を提供する。</p> <p>-----</p> <p>【内容】 発達、栄養、歯科、遊びなどの基本的な講座とそれをテーマにした話し合いや高齢者との交流。終了後はなるべくサークル活動に参加するように働きかけている。</p>	全9回 9～12月

平成29年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
おひさま文庫 お話し会	<p>【目的】 親子に絵本の楽しみを知ってもらい、本に親しんでもらう。乳幼児の地域でのつながり作り、仲間作り。絵本読み聞かせボランティア「おひさま」との共催。</p> <p>【内容】 ボランティアが、絵本、紙芝居、パネルシアターを演じ、また、手遊び、わらべ歌などを親子で楽しむ。お話し会終了後、絵本の選び方などの交流会を開催する。夏と冬には特別プログラムのお話し会を開催。</p>	毎月第2火曜日 年間10回 夏・冬に特別編

事業名	目的・内容	実施時期・回数
わくわくちびっ こ運動会	<p>【目的】 ケアプラザを利用している子育てサークル間の交流と、未就園児の地域でのつながり作り。</p> <p>【内容】 笹下中央公園で、未就園の親子対象の運動会を実施。企画や準備は、各サークルが分担して行う。当日はサークル以外の親子も自由参加。乳幼児の保育を「おたすけ隊」や地域のボランティアが担う。</p>	1回 9月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
日下地区子育て 連絡会	<p>【目的】 地域の子育て支援の課題についての話し合いや情報交換を行い、地域の子育て環境の向上や、親子の孤立を防止し、楽しく子育てできるまちづくりを目指す。</p> <p>【内容】 地域の子育て関係者と、母親たち当事者を含めた話し合いを開催。</p>	年2回 10月、2月

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
みんなのサロン ぼかぼか	<p>【目的】 障がい児の土曜日の余暇支援。 障がい児親子の地域での仲間作り。</p> <p>【内容】 隔月の土曜日の午後、工作や、お菓子作りなどのプログラムを学生や地域のボランティアと一緒に楽しむ。</p>	隔月第4土曜日 年間6回

平成29年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
日下たんぽぽまつり	<p>【目的】 学童保育たんぽぽと共催で、お祭りを開催。ケアプラザを知ってもらい気軽に利用してもらおうきっかけ作り。地域の交流。</p> <p>-----</p> <p>【内容】 学童のバザー、布おもちゃボランティアや部屋利用団体の手作り品の販売や活動紹介。</p>	1回 10月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
つるし雛まつり	<p>【目的】 ケアプラザを地域に知ってもらおうきっかけ作り。文化の伝承。地域のつながり作り。</p> <p>-----</p> <p>【内容】 講習会で作った作品、ボランティア、地域の方々の作品を一同にケアプラザのロビーに展示し、3階では手作りのひな人形や小物を展示。また、セルフ商品やボランティアによる喫茶コーナー、デイサービスの手作り販売などを行う。</p>	2月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティア交流会	<p>【目的】 様々な活動を知ってもらい、新たな活動を始めるキッカケ作り。また、自身の活動の継続ややりがいを再認識して頂くきっかけの場にして頂く。</p> <p>-----</p> <p>【内容】 ボランティアの方々同士の情報交換や活動状況などを話し合い交流する。</p>	1回 2月

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
笹下川クリーンアップ	<p>【目的】 地域福祉保健計画の推進。川の清掃活動に参加することで地域とのつながりや、世代間交流、人材の育成を目指す。</p> <p>-----</p> <p>【内容】 春と秋に笹下川の清掃を行う。</p>	2回 5月・9月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
川の学校 よみがえれ！笹下川	<p>【目的】 地域の現状に目を向け、世代環境をこえて一つの活動を行うことで、地域の交流と地域活動のきっかけ作りを支援する。</p> <p>-----</p> <p>【内容】 笹下川に清らかな流れを取り戻し、ホタルが住めるような故郷の川を取り戻す事を考える。 区民企画講座の共催。</p>	6回 6～10月

平成29年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
おひさまクラブ	<p>【目的】 母子の地域でのつながり作り、交流の場の提供。仲間作り、孤立の予防。 日下地区社協との共催。</p> <p>【内容】多目的ホールを開放し、未就園児と母親が集い交流する場を提供。主任児童委員、保育のボランティア、子供会の母親が支援に入り、気軽に相談などもできるようにしている。笹下南保育園の保育士も都合がつけば参加し相談にのっていただいている。</p>	毎月第3月曜日 年間

平成29年度 自主事業収支報告書

施設名

日下地域ケアプラザ

事業名	①主な対象者	自主事業決算額						
	②参加人数	総経費	収入			支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他
介護者の集い	介護者	2280	地活					
	45		包括	2280				2280
	0		生活					
おとなの未来設計塾	地域住民	20047	地活					
	42		包括	20047			20047	
	0		生活					
医師の相談タイム	ケアマネジャー	12000	地活					
	25		包括	12000			12000	
	0		生活					
			地活					
			包括					
			生活					
			地活					
			包括					
			生活					
			地活					
			包括					
			生活					
			地活					
			包括					
			生活					
			地活					
			包括					
			生活					
			地活					
			包括					
			生活					
			地活					
			包括					
			生活					

平成29年度 自主事業報告書

横浜市日下地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
介護者の集い	<p>【目的】 在宅で介護をしている介護者の孤立化予防及び情報交換、ピアカウンセリングの場と開催し介護負担の軽減を行う。高齢者虐待防止事業の一環として行う。</p> <p>【内容】 フリートーク、介護に関する勉強会、施設見学、外出</p>	毎月1回、第一木曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
おとなの未来設計塾	<p>【目的】 高齢期を迎えても、自分らしく生活を続ける為に必要な知識や情報等を得て、今後の自身の生活を考える機会とする。</p> <p>【内容】 ①医師を招いての認知症に関する講座 ②精神保健福祉士を招いての、認知症診断に係る病院のかかり方</p>	①平成30年3月3日 ②平成30年3月18日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
主治医との相談タイム	<p>【目的】 担当エリア内に利用者をもつケアマネジャーに対して、医療と福祉の連携の一環として担当医と情報交換ができる場を設定する。</p> <p>【内容】 予約制で担当医の時間を確保し、ケアマネジャーが顔を合わせて利用者の相談・情報交換を行う。今年度は2名の医師に協力していただいた。</p>	①毎月第4水曜日 全8回 ②偶数月第3木曜日 全4回

平成29年度 自主事業収支報告書

施設名

横浜市日下地域ケアプラザ

事業名	①主な対象者	自主事業決算額						
	②参加人数	総経費	収入			支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他
住まいのマイスター講座	地域住民	36313	地活	19000	19000	25137	83916	11176
	19名		包括					
	1000円		生活 17313					
茶の間会議(協議体)	地域住民	20500	地活	20500	20500	20500	20500	20500
	9名×11回=99名		包括					
			生活					
見守り交流会(協議体)	地域住民	4800	地活	4800	4800	4800	4800	4800
	34名		包括					
			生活					
あいさつ見守り運動(イエローバッチ)	地域住民	110916	地活	110916	110916	83916	27000	27000
	5名×12=60名		包括					
			生活					
ボランティア研修	地域住民	21000	地活	21000	21000	21000	21000	21000
	44名		包括					
			生活					
			地活					
			包括					
			生活					
			地活					
			包括					
			生活					
			地活					
			包括					
			生活					
			地活					
			包括					
			生活					
		193529		174529	19000	46137	83916	63476

平成29年度 自主事業報告書

横浜市日下地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
茶の間会議	【協議体】地域のサロン運営について議論、住民主体で捉えた課題や地域の潜在する力など参加者で共有し自治町内会館の有効活用や地域と繋がっていない高齢者の孤立防止を目的に会館を拠点とした新たな居場所づくりを検討する	毎月第2月曜日 11回開催

事業名	目的・内容	実施時期・回数
関ふれあいサロン	【区・包括看護師と連携事業】住民の提案で高齢者孤立防止の健康麻雀サロンが立ち上がり町内会館の有効活用や虚弱高齢者の参加、高齢ボランティアの活躍の場として展開中、サロンの事業内容が介護予防を目的とした活動であることから区の元気づくりステーションに繋ぐ	毎月第4金曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
元気はつらつラジオ体操	【区・包括看護師と連携事業】住民の高齢化や自治会館を持たない集合住宅でラジオ体操を実施、今年度から区の元気づくりステーションとして活動、住民の様々なアイデアで、近隣ウォーキング・健康講座など青空教室を展開し希薄化していた集合住宅の住民同士が挨拶を交わし地域コミュニティの活性化に繋げる	第1・3月曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
見守り交流会	【協議体】包括主マネと連携、個別の支援を多職種で検討する包括の個別ケア会議から、地域にある資源や潜在力に着目し住民と共に課題を把握・議論する協議体「日下見守り交流会」に繋ぎ高齢者の見守りの輪を広げる連携強化を目指す	11月 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
日下健康フェスタ	【薬局と連携事業】薬局の地域支援事業として製薬会社・保健活動推進員と体操講師・スポーツ推進委員協働で「第2回日下健康フェスタ・からだ測定」を開催、例年実施することで地域住民が体操の効果を把握でき意欲向上につながるよう健康づくり促進に努めた。	3月 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ピープル日下	【V0生活支援事業】地域住民の支え合いグループ「ピープル日下」の活動を包括主マネと連携し事務局として後方支援、ネットワークの強化・依頼者との調整・資源局との調整・会員の活動中の安全確保に努める。また例年の研修は10月に「理学療法士によるボランティアのためのセルフケア講座」2月に「地域で見守るこどもの育ち」をテーマに子どもの虐待の現状、虐待の基本的知識の講義を受け参加者が地域で何ができるのかを考える研修を実施	【活動回数】 189回 【研修】 10月・2月

平成29年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
よこはまシニアボランティア合同研修会	【区外ケアプラザと連携】 新たな人材発掘に繋げるため地域交流部門と連携し介護保険事業である「よこはまシニアボランティア登録会」を区外の隣接ケアプラザと合同開催、エリア間の情報を共有し、元気な高齢者の健康増進や地域貢献を通じた生きがいがづくりの促進に努める	3月 1回
事業名	目的・内容	実施時期・回数
あいさつ運動	【5職種連携事業】 日下地域保健計画から「あいさつ運動」の取組が始まり、シンボルマークひっしーバッジを創出、日下の子どもたちが地域全体に見守られている町を目指し地域住民と5職種で気軽に挨拶を交わす運動を展開。住民のあいさつ運動推進チームや区推進事業である見守り協力事業者登録に協力することで地域でのゆるやかな見守りや防災・防犯に役立つ取組。また日下住民以外の郵便局・商店・コンビニ・飲食店にはイエローバッジを配布し地域ぐるみの取組に協力、見守りの輪を更に広げていく。	随時
事業名	目的・内容	実施時期・回数
目指せ！日下住まいのマイスター	【人材発掘事業】 新たな地域の人材発掘を目指し、ボランティア団体ピープル日下のスキルアップも兼ね参加者自身の暮らしに役立つ6回講座を開催。剪定・草取り・簡単な自宅の修繕の内容を盛り込み、交流会ではピープル日下の活動を紹介することで地域の助け合い支え合いを伝える機会とした。繋がりのなかった住民対象の地域参加・地域貢献促進事業。	8月・9月・10月 6回
事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護予防体操実技とボランティアのセルフケア	地域のボランティアを対象に地域のサロンで実施出来る簡単な体操・ストレッチを学ぶ研修、また、自身のセルフケアとしても自宅で継続出来るストレッチの指導を受ける	10月 1回
事業名	目的・内容	実施時期・回数
日下防災しっこウォークラリー	団塊世代男性の仲間づくり日下チェッカーズの「日下防災しっこウォークラリー」の開催を地域交流と連携。日下地区の名所・旧跡を巡りながらコースに点在する防災拠点・いっとき避難場所・防災関係諸設備などを探索する多世代ウォークラリー	4月 1回